

## 編纂後記

当行は、明治11年3月15日の第二十九国立銀行の創業以来、140年の歴史を刻んできた。その記念事業の一つとして、西暦では19世紀・20世紀・21世紀の3世紀、和暦では明治・大正・昭和・平成の4代にわたる当行の発展過程と金融機関として地域社会に果たしてきた役割を記録にとどめるため、『伊予銀行140年史』を刊行することとなった。

本史の本編は、「沿革1」と「沿革2」の2部構成とした。「沿革1」では、創業から梶田三郎頭取の時代までを記載して、その内容は平成4年に刊行した『伊予銀行五十年史』に拠った。附言しておくとして、この「五十年」は、愛媛の東・中・南予に鼎立していた今治商業銀行、松山五十二銀行、豫州銀行の3行が「一県一行主義」の国策に対応するため、統合合併し「伊豫合同銀行」が発足した昭和16年9月1日を起点とする。つまり昭和16年9月1日からカウントすると、平成3年9月1日が50周年であったことから、翌4年6月25日に『伊予銀行五十年史』を刊行したのである。

「沿革2」では、水木儀三頭取、麻生俊介頭取、森田浩治頭取、大塚岩男頭取の時代を記録し、“間奏曲”としてコラムを挟んだ。当行の経営理念や経営哲学がうかがえるような記述に意を用いたが、わけでも「東邦相互銀行の救済合併」では、梶田三郎頭取、水木儀三頭取をはじめ、関係者の証言を幾つも重ねて引用することによって、当時の切迫した状況の再現に努めた。

さらに、お客さま、株主の皆さま、従業員、社会などのステークホルダーに向けた企業の社会的責任を果たし、「潤いと活力ある地域の明日を創る」取組みともいえる福祉、文化、環境、地域活性化、教育、スポーツなどの「いよぎんCSR」にもかなりの紙数を割いた。

本史の編纂に当たっては、凸版印刷株式会社、セキ株式会社から格別のお力添えをいただくとともに、当行の役員、各部、各営業店、関連会社及び旧友会から一方ならぬご支援・ご協力をいただいた。衷心よりお礼を申し上げます。

編纂実務については、平成28年4月に事務局を広報CSR室に置き、総括を亀井保徳、資料編纂を戸田正良、本文編纂を岡山典弘が、それぞれ担当した。

この『伊予銀行140年史』が、地方金融・経済史あるいは当行の歴史資料としていささかなりともお役に立てば、編纂に携わった者として喜びこれに過ぎるものはない。

令和元年9月  
伊予銀行広報 CSR 室

## 伊予銀行140年史

令和元年(2019)9月

発行 株式会社 伊予銀行  
松山市南堀端町1番地

編纂 伊予銀行広報CSR室

制作 凸版印刷株式会社  
トッパン年史センター

印刷 セキ株式会社  
松山市湊町7丁目7番地1

2019 Printed in Japan